

CA-35

¥39,800

コンパクトタイプで強力なパワー40W(R.M.S.)。30cmスピーカーを使用しているため量感あるギターサウンドが演出できます。粘りあるギターサウンドが得られるディストーション・コントロールを装備し、トーン・コントロールやスペクトラムの組み合わせにより、多様な変化のあるサウンドを演出できます。



主な規格

- 出力: 40W (R.M.S.) ●スピーカー: 30cm×1(インピーダンス8Ω)
- 入力: ローゲイン、ハイゲイン ●コントロール: ボリューム、トレブル、ベース、スペクトラムスイッチ、ディストーション
- 電源スイッチ ●消費電力: 35W ●外形寸法: 440(W)×500(H)×200(D)mm ●重量: 10kg ●付属品: ビニールカバー

CA-40

¥54,000

出力40W(R.M.S.)。30cmスピーカー(1本)使用で、ダンピングのきいた低音、シャープな高音が得られ、高音域の変化を多様にするスペクトラム・コントロール付です。3本スプリング方式の最新リバーブユニットを使用しているため、自然な残響音が得られます。



主な規格

- 出力: 40W (R.M.S.) ●スピーカー: 30cm×1(インピーダンス8Ω)
- 入力: ローゲイン、ハイゲイン ●コントロール: ボリューム、トレブル、ミドル、ベース、スペクトラム、リバーブ、トレモロ、スピード、トレモロ・ディザース、フットスイッチ端子: トレモロ、リバーブ、スペクトラム ●電源スイッチ ●消費電力: 35W ●外形寸法: 480(W)×540(H)×230(D)mm ●重量: 15kg ●付属品: ビニールカバー

CB-40

¥59,000

出力40W(R.M.S.)。38cmスピーカー(1本)使用でダンピングのきいた低音、クリアな高音が得られ、特に高音域の変化を多様にするスペクトラムにより今までになかったベース・サウンドを演出できます。



主な規格

- 出力: 40W (R.M.S.) ●スピーカー: 30cm×1(インピーダンス8Ω)
- 入力: ローゲイン、ハイゲイン ●コントロール: ボリューム、トレブル、ミドル、ベース、スペクトラム ●電源スイッチ ●消費電力: 35W ●外形寸法: 500(W)×600(H)×230(D)mm ●重量: 17kg ●付属品: ビニールカバー

ギター・アンプ・ベースアンプの機能とコントロール・ガイド

ギターアンプやベースアンプを単に出力や価格だけで選ぶ人も少なくなっています。もちろん、好みに合った音質であることは前提となりますが、音づくりに慎重な人なら、コントロール部が気になるはず。どのようなコントロールが、どのように装備されているのか、こうした事がアンプ選びのポイントにもなる場所でしょう。

さて、ここでは、ギターアンプ、ベースアンプのコントロール部に装備されているさまざまな機能に焦点を合わせてリストアップしてみました。

インプット (INPUT)

電気ギターのアウトプラットを接続する入力端子で、通常1チャンネルについて「ハイ(HIGH)」と「ロー(LOW)」のふたつを備えています。この「ハイ」「ロー」はゲイン(GAIN)の大きさを分けたもので、「ハイ」では増幅が大きく、「ロー」では増幅が小さい。基本的には、出力の小さい電気ギター(ストラトキャスタータイプなど)は「ハイ」、出力の大きい電気ギター(レスポールタイプなど)は「ロー」で適正な入力となりますが、ロック系のギタリストは使用している電気ギターの種類にかかわらず「ハイ」に接続してパワフルなサウンドをつくれる場合が多いようです。

トーン・コントロール (TONE CONTROL)

音域を設定するコントロールで、トレブル(高音域)、ベース(低音域)の2コントロールから成るものと、これにミドル(中音域)が加わった3コントロールのものがあります。ひとつの音に含まれている倍音のうち、トレブルは高音域、ミドルは中音域、ベースは低音域を増減する働きをします。基本的には、トレブルを上げるに従って音色は固くなり、ベースは柔らかいものになり、また、ミドルは音量感を増すものと考えられ、これらの組み合わせにより音色をつくるて行くわけです。このトーン・コントロールの設定こそ、アンプを使う上でのポイントとなるもので、ふたつのコントロールだけでもさまざまな音色づくりができるし、演奏場所の条件によって高音域が抑えられる場合にも補正することができます。それぞれの音づくりで、自分なりのセッティング方法を見つけるということもギタリストにとっては重要な課題といえます。

スペクトラム (SPECTRUM)

高音域を強調して、断端に固い音をつくるコントロールで、ロックやソウル・ミュージックのギター奏法のテクニクが有効に活かせるエフェクトです。SR-120のスペクトラムは可変式になっており、強調する高音域の周波数の微調整ができるようになっています。CA-40、CB-40のスペクトラムはクリック式で、強調する高音域の周波数を5段階に切り替えることができます。CA-35のスペクトラムはスイッチ式で、「ハイ(HIGH)」「ロー(LOW)」及びOFFの3段階切替になっており、高音域の強調の度合を変えられます。このスペクトラムの活かし方としては、ピッキングの時、音色にキラリと光が表われる点を活かしたリズムカルな奏法、特にファンキーなオブリガードのフレーズなどで効果的です。

ベース・ブースター (BASS BOOSTER)

ベース・ブースターはスペクトラムとは逆に低音域を強調するもので、ベース・コントロールが低音なら、ベース・ブースターは重低音とも言えるトーン・コントロールです。ベース・コントロールとコンプレッションで、さまざまなバリエーションをつくり出すことが特長で、ベース音の張りや迫力を出す上では抜群の動きをします。RB-60に装備。

トーン・セレクター (TONE SELECTOR)

トーン・セレクターは、トーン・コントロールのプリセットとも言えるもので、3ボタンから成っており、RB-120及びSR-70、RB-70に装備されています。この3つのトーンは「1」が中音域が豊かな量感のあるもの、「2」が低音域が強調された柔らかいもの、「3」が高音域が強調されたものがあるものが基本となっており、これにより各トーン・コントロールでさらに変化を与えられます。トーン・セッティングの素早い切り替えなどを、独自のトーン設定をする場合に活かせる機能です。

ボリューム (VOLUME)

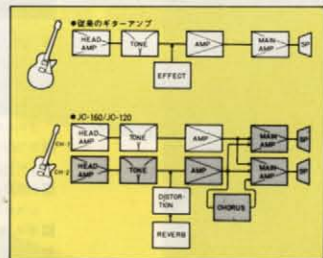
簡単に言ってしまうと音量コントロールのことですが、このボリューム設定によってトーンの聞こえ方が変化することや、電気ギター側のボリュームとのコンプレッションによってトーンやSN比が変化することを考えれば、そのコントロールも微妙になってきます。一般に、人間の耳は、小音量の時は高音域が聞こえにくいという性質があり、このため、高音域を強調する必要がある場合があります。また、S/N比ということから考えると、基本的には、電気ギターのボリュームは高めにセッティし、アンプ側では、このセッティングにより、電気ギターのボリュームも目盛りによって音色が異なり、さらに、ソロの時やサイドにまわる時でも設定が異なってくるので、このあたりもケースバイ・ケースです。

マスター・ボリューム (MASTER VOLUME)

SR-60に装備されているボリュームで、ボリューム・コントロールとの連動で、さまざまなバリエーションをつくり出すことができます。

コーラス (CHORUS)

コーラスは、ひとつの音源(電気ギター)が多音源に聞こえるような、合奏効果を出すもので、JCシリーズのオリジナルな機能です。従来のギターアンプは、電気ギターから送られてきた小さな信号を増幅して、そのままスピーカーから出すのが働きたったわけですが、JCでは、これらの増幅機能に加えて、コーラス回路によって2つに分けられた電気ギターの信号を、それぞれのメインアンプとスピーカーで動作させているため、サウンド効果は音響面までに及んでいます。それまで、増幅が主な機能であり、音響面では設置条件や他器材を用いての演出に制約されていたギターアンプも、音響面まで機能化されたJCシリーズの登場によって、その領域が大きく押し広げられました。



図は、従来のギターアンプと、JC-120のブロック図を示していますのであわせて参照してください。

リバーブ (REVERB)

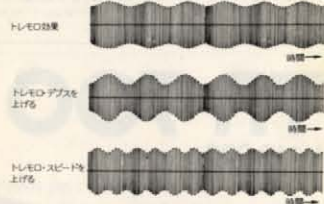
残響効果を出す装置で、原音が何回も反射して柔らかみを帯びてくような効果を出します。内蔵されているユニットは、スプリング方式が最もポピュラーで、JCシリーズなどで使われているのは、3本スプリングの共振やマイクの少ないユニットを使用している、品質が低いリバーブ・ユニットでは、共振によるハウリングやノイズに悩まされるので注意しましょう。また、リバーブ・ユニットは外側からの振動の影響を受けやすいので、この点も注意してください。

ディストーション (DISTORTION)

ハードなギター・サウンドをつくり出すコントロールで、モデルによってそのサウンドは異なります。CA-35のディストーションは、波形を鋭くしてディストーション効果を出しており、トーン・コントロールで特にベースを補えばサウンドは粘りのあるものをつくり出すことができます。JCシリーズのディストーションは、いったんトーン・コントロールを通った信号をツツに重ねることができ、基本的なトーンは変わりません。また、いずれも電気ギターのボリュームは高くして十分な出力を送る必要がありますが、フェズとは異なり、ピッキングの強弱や抑揚はちゃんと出ることができます。

トレモロ (TREMOLO)

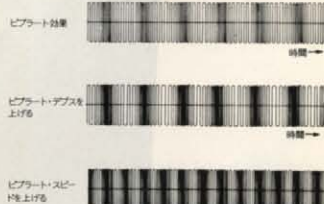
トレモロは、AM(Amplitude Modulation)とも呼ばれている効果で、下に示すように周期的に音量を変化させるものです。



トレモロは通常、デプスとレート(ふたつのコントロール)から成り、デプスは効果の深さ、スピードは効果の速さをコントロールします。このトレモロは、レガートの奏法などで、独特の柔らかな効果を得ることができます。

ビブラート (VIBRATO)

トレモロと似た音質ですが、その原理は全く異なります。ビブラートとはFM(Frequency Modulation)とも呼ばれるもので、ピッチが周期的に変化する効果です。



ビブラートはJCシリーズに装備されており、効果の深さを調節するデプスと速さを調節するスピードのふたつのコントロールから成ります。このビブラートは、ストレー(原音)とピッチの変化したものがキンクンと出てくるので、その効果はコーラス・サウンドのように厚みのあるものになっています。ビブラートは、トレモロと同じように音をゆれた感じのものにするわけですが、その効果はよりソフトであるといえます。